様式第１号（第１０条関係）

2024 年度業務実績報告書

提出日 2024 年 1 月 17 日

１．職名・氏名　教授　西　弘嗣

２．学位　　学位　理学博士、専門分野　地質学、授与機関　九州大学、授与年　1987

３．教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 地球生命史学(2 単位, 1～3 年), 地球環境史学(2 単位, M1～2 年), 古生物学専攻演習 I(2 単位, M1 年), 古生物学専攻演習 II(2 単位. M2), 古生物学専攻実験 I (2 単位, M1), 古生物学専攻実験 II(2単位, M2 年)
②　内容・ねらい 生物進化と地球環境の関係を理解し, 恐竜がどのような進化をしてきたか, またどのような環境に生息していたかを理解する.
③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ビジュアルに理解できるように講義を工夫し, 古生物だけでなく地質や古海洋などの分野も取り入れて, 環境との関係を総合的に理解できるように工夫している.
(2)その他の教育活動
内容

４．研究業績

(1)研究業績の公表

① 著書

【0 本】

② 学術論文（査読あり）

(1) R. Takashima, D. Selby, T. Yamanaka, Y. Kuwahara, H. Nakamura, K. Sawada, M. A. Ikeda, T. Ando, K. Hayashi, M. Nishida, T. Usami, D. Kameyama, H. Nishi, A. Kuroyanagi , B. R. Gyawali (2024): Large Igneous Province activity drives Oceanic Anoxic Event 2 environmental change across eastern Asia. Communications Earth & Environments (2024) 5:85

(2) G. Sakugawa, M. A. Ikeda, T. Ando, R. Takashima, H. Nishi and K. Sawada (2024): Evaluation of fossil geomacromolecular sources by the pyrolysis of density fractions of kerogens from Cretaceous and Miocene organic-rich marine shales. Geochemical Journal Vol. 58 No. 4 (2024) pp. 138–154 DOI: 10.2343/geochemj.GJ24012L

【2 本】

③ その他論文（査読なし）

【0 本】

④ 学会発表等

（1）北海道白糠丘陵に露出する白亜紀―古第三紀境界付近の統合層序と年代. 高嶋ほか、日本地質学会 313 学術大会（山形），2024 年 9 月 8～10 日.

（2）北海道白糠丘陵における白亜紀―古第三紀境界のオスミウム同位体層序。太田ほか、日本地質学会 313 学術大会（山形），2024 年 9 月 8～10 日.

(3) 北米カリフォルニアにおける Cenomanian/Turonian 境界堆積岩のバイオマーカーおよびロックエバル分析：陸域古植生変動の復元。池田ほか、第 41 回有機地球化学シンポジウム（2024 松江 IV シンポジウム），2024 年 9 月 26 日.

【3 件】

⑤ その他の公表実績

【0 本】

(2)科研費等の競争的資金獲得実績

(1) 極限温暖化時に生じた森林大崩壊の全容解明（基盤研究Ｂ，代表）

(2) 東アジア初の完全な K/Pg 境界層から探る白亜紀末・大量絶滅における環境変動（基盤 A, 分担）

(3) 人文科学と材料科学が紡ぐ新知創造学際領域の形成（学際領域領域展開ハブ形成プログラム）

(3)特許等取得

(4)学会活動等

日本学術会議会員(26 期)，日本古生物学会評議員，日本地質学会理事

５．地域・社会貢献活動

①福井県立恐竜博物館特別顧問
②SSH 生徒研究発表会審査委員
⑥　公開講座
ふくい技術士交流会の研修会講義（国際交流会，2024 年 7 月 27 日，10 時～12 時）
夢ナビライフ講義（web，2024 年 10 月 19～20 日）
近畿ブロックの東京事務所次長会研修会講演（県立恐竜博物館，2024 年 12 月 13 日 11:20～12:00）

６．大学運営への参画

(1)補職
恐竜学研究所所長
(2)委員会・チーム活動
教育研究審議会
(3)学内行事への参加
オープンキャンパス
(4)その他、自発的活動など